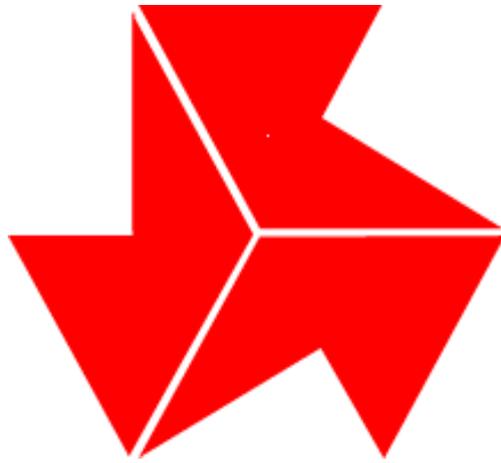


令和2年度

全国高等学校選抜自転車競技大会

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ガイドライン



Ver.2021-0314

(公財) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部

(公財) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ガイドライン

1 ガイドライン作成に当たって

(1) 本ガイドラインの作成に当たっては、国や日本スポーツ協会などが示すガイドライン等、また(公財)全国高等学校体育連盟が示す「全国高等学校総合体育大会実施時における新型コロナウイルス感染防止拡大に関する基本方針」、中央競技団体である(公財)日本自転車競技連盟(JCF)が示す、競技特性に応じた対応策の内容を基本として作成する。

(2) 競技大会の感染症拡大防止対策の作成に当たっては、開催地実行委員会と当専門部間による連携の下、内容等の整理をする。

2 コロナ禍における大会運営について

(1) 選手・役員等をはじめ大会関係者全員の安心・安全の確保を最優先事項とする。

(2) 大会実施の可否の決定に際しては、「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策会議」及び(公財)全国高等学校体育連盟等関係機関と綿密な連携の下、後述の開催中止の判断基準をもとに、本専門部が決定する。

(3) 大会運営に当たっては、開催地自治体(衛生部局等を含む)及び使用する施設等が示す感染症拡大防止対策方針等に従うものとする。

※上記2の「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策会議」は、開催地の都道府県実行委員会、市町実行委員会、本専門部の三者で構成する。

全国高校選抜大会においては大会実行委員会が「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策会議」を担う。

3 新型コロナウイルス感染症拡大防止の基本行動

1 三つの「密」(密閉空間、密集場所、密接場面)を回避する。

2 身体的距離を確保する。

3 手洗い・手指消毒を徹底する。

4 マスクの着用(ただし、熱中症や競技特性に応じた対応に留意する)を徹底する。

4 大会の開催可否の判断基準と判断のタイミング

(1) 大会の開催可否の判断にあたっては、参加する選手・監督および役員をはじめ大会関係者全員の安心・安全の確保を最優先する。

(2) 開催したことにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が誘発されたり、地域医療体制に影響がでることがないようにする。

(3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、以下の状況となった場合、開催地の各都道府県知事の方針に従うことを大前提にして、(公財)全国高等学校体育連盟、開催地都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等関係機関と連携をとり判断する。

●開催中止の判断基準(主として全国選抜大会の開催を想定)

① 全国一斉の緊急事態宣言が発令されている場合。

② 開催地(県もしくは市町)が緊急事態宣言もしくは独自の緊急事態宣言等が発令されている場合。

③ 開催地の医療機関の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制が困難な状態にある場合。(消防署、病院、保健所等)

④ 参加選手の1/4以上が参集できない場合

⑤ 予選会の開催が困難な場合(当該大会の予選会の2/3程度が実施できない)(全国高校総体)

⑥ 大会期間中に参加している者および競技運営に係る者に感染者が発生し、競技運営の継続が困難と判断される場合。

⑦ その他新型コロナウイルス感染症に起因する事象により大会の開催が困難と判断される場合。(地域住民感情等)

[スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン](#)

[国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針 第1版\(PDF:1.44MB\)](#)

●開催可否判断のタイミング

《開催条件がクリアされている場合》

① 原則として、日程変更および延期措置は行わない。

② 大会規模(日程、参加人数)を縮小して実施も検討する。

《開催条件がクリアされていない場合》

① 1ヶ月前(製作物品発注締切、団体旅行宿泊取消締切)→開催中止(延期)の決定。(全国選抜大会については2月専門委員長会時)
→上記基準とともに、新型コロナウイルス感染症拡大の状況と社会情勢を鑑みて、中止もしくは延期を決定する。

② 1ヶ月～3週間前まで(2月末)

→上記基準とともに、新型コロナウイルス感染症拡大の状況と社会情勢を鑑みて、中止もしくは延期を決定する。

③ 3週間～直前 → 全国的状況、開催地(県及び市町)の状況により、中止判断を決定する。

※ 中止ではなく延期の可能性も含め、会場施設、宿泊先の調整を行うが、延期にする場合は、遅くとも2月末(大会3週間前)に判断する。

5 感染者・体調不良者発生時の出場に関する対応

所属都道府県のスポーツ主管課、教育委員会、高体連等から示されているガイドラインに従って参加可否を判断する。

《大会前》 大会開催2週間前～大会前日

- ① チーム内に新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者と特定された者がいる場合、そのチームは参加できない。
- ② 参加校の生徒や教職員等の中から感染者が発生したとき、学校が休校になる場合は参加できない。
ただし、保健所が実施する疫学調査を踏まえ、専門家と協議した結果、許可されれば参加できる。
- ③ 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加校の責任において当該生徒およびチームの参加を適切に判断して決めること。
参加者は大会2週間前から大会終了まで「健康チェックシート」をチェックし、体調管理に努める。
 - 体調が良くない場合。（平熱以上の発熱や風邪の症状がある場合）
 - 健康チェックシートに該当する症状が出ている場合。
 - 同居家族や身近な知人で感染が疑われる方がいる。
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある。

《大会期間中》 大会前日～大会終了

上記①、②、③に加えて

- 発熱や風邪の症状がある場合、入場、受付を取りやめる。来場を控え、医療機関を受診する
- 体調不良者または症状が確認された者については、主催者に報告の上、帰宅（または帰宿舎）を促し、医療機関を受診するよう伝える。
- 入場後、会場内で体調不良者または症状が確認された場合、救護所の医師らの指示に従う。
- 診察の結果、新型コロナウイルス感染が疑われる場合は、主催者に報告の上、速やかに相談センターや保健所の指示に従う。
- 健康チェックシートに挙げられた項目の症状が4日以上続く場合、あるいは続かなかとも強い症状がある場合は、最寄りの医療機関や保健所に報告・相談する。

久留米市新型コロナウイルス相談センター

TEL：0942-30-9335 FAX：0942-30-9833

（注意）24時間、土・日・祝日も受け付けます。

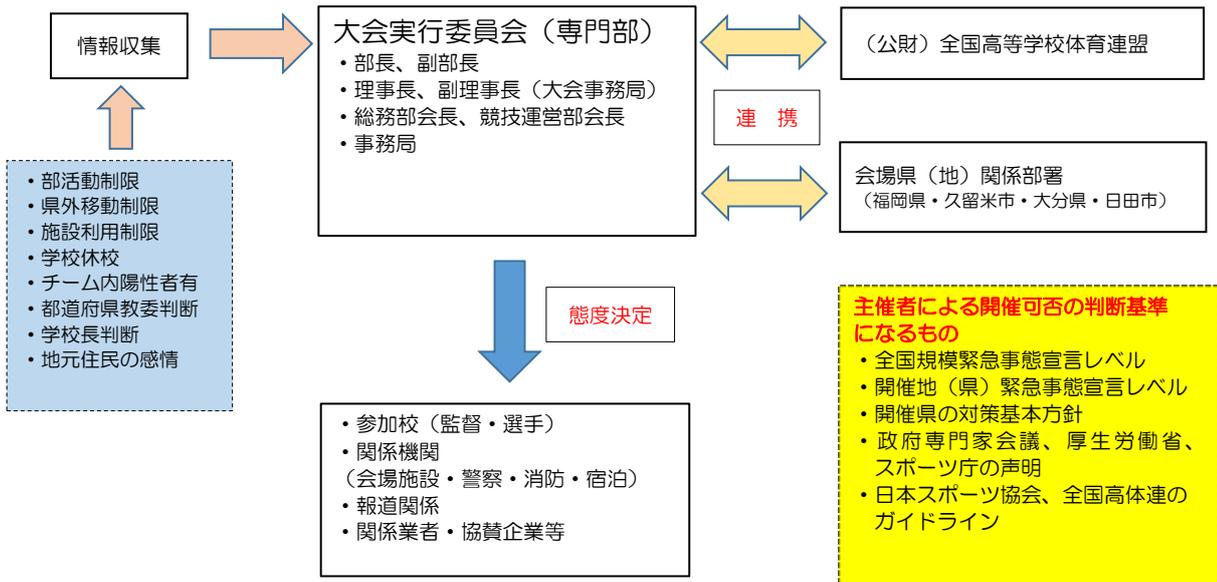
緊急時医療機関

聖マリア病院 久留米市津福本町422番地

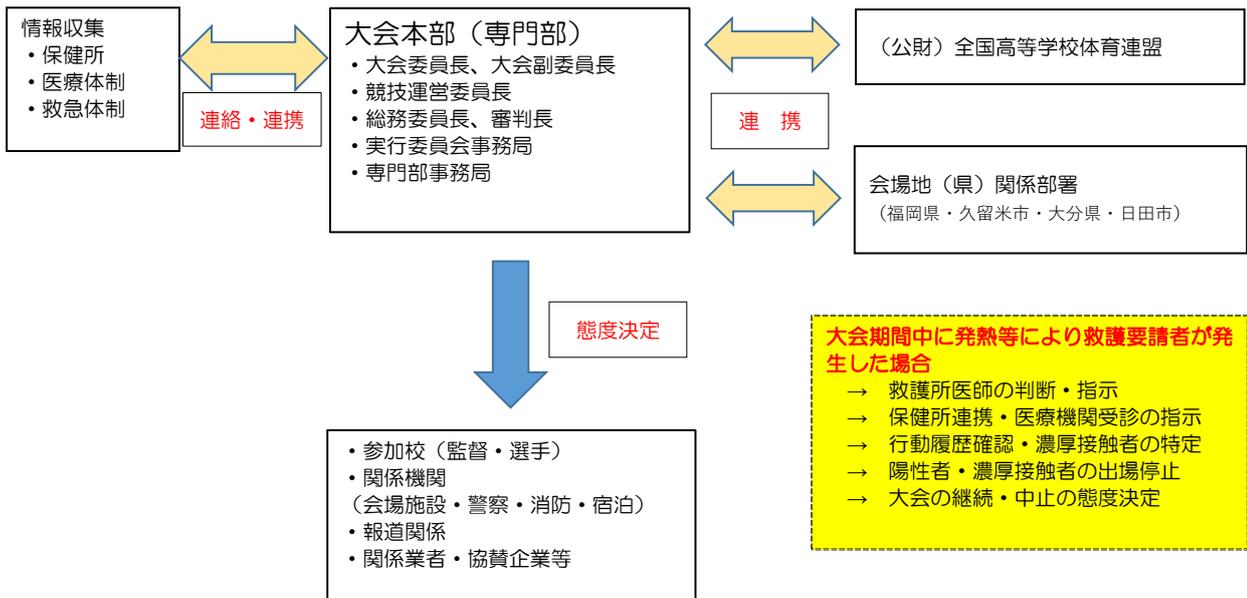
TEL：0942-35-3322 FAX:0942-34-3115

全国高等学校選抜大会における大会可否の意思決定の流れ (新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応策)

大会前 (1カ月前～開催直前)



大会期間中 (期間中に感染者もしくは感染が疑わしい者が発生した場合)



大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（全般的事項）

□大会参加者は、健康チェックシート表（様式1）を各競技大会2週間前から大会参加終了日までチェックし、健康状況確認用紙（様式2）を大会参加期間中は学校ごとに毎日提出すること。万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、健康チェックシート表（様式1）の個人の原本について、保存期間（1ヶ月以上）を定めて保存しておくこと。

□大会役員は、健康チェックシート表（様式1）を大会2週間前から大会終了までチェックし、保存期間（1ヶ月以上）を定めて各自保存しておき、該当項目がある場合には実行委員会に申し出て、参加の可否について相談すること。

□メディア関係者、視察関係者は、各所属ごとに2名以内で、事前に申請したものに限り入場を認める。健康チェックシート表（メディア・視察関係者）（様式3）を大会2週間前から大会終了までチェックし、保存期間（1か月以上）を定めて各自保存しておく。入場の際、健康状況確認用紙（様式4）を大会参加期間中は毎日提出すること。発熱が認められる場合は、入場できない。

□選手・監督との接触はできるだけ控える。取材が必要な際は、指定されたエリアか会場外で行う。

□実行委員会は万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、大会参加者から提出された健康状況確認用紙（様式2）を、保存期間（1ヶ月以上）を定めて保存しておくこと。

□参加者に陽性者が確認された場合には、保健所や医療機関の指示に従うこと。

□参加者は、大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、実行委員会に対して速やかに報告すること。実行委員会は報告があった場合には、関係機関の求めに応じて対応すること。

大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（参加者向け①）

参加者が遵守すべき事項

□参加選手は、大会参加同意書を提出すること。

□会場に入場する際、必ず検温チェックを受け、健康状況確認用紙を提出すること。

□発熱や風邪の症状がある場合、入場を取りやめ、医療機関を受診する。

□ロード会場のオートボリスでは、入場ゲートで車に乗車したまま検温する。同一車両内で発熱者が認められた場合、乗車している全員が入場できない。

□マスクおよびマスクケースなどを持参すること（参加受付時や着替え時等の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）

□参加チームごとに、感染拡大防止対策として、検温計、消毒用アルコール、手袋等を準備しておくこと。

□こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること

□他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2mを目安に（最低1m））を確保すること

□大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと

□感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと

□大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、実行委員会に対して速やかに報告すること

□大会の前後のミーティング等においても、三つの密を避けること

参加者の留意点

□十分な距離の確保

□競技の種類に関わらず、競技をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること

（※）感染予防の観点からは、できるだけ2mを目安に（最低1m）の距離を空けることが適当である

□運動強度が高い競技の場合は、呼吸が激しくなるため、より一層距離を空けること

□競技中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと

□タオルの共用はしないこと

□飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること

□飲みきれなかった飲料等を指定場所以外に捨てないこと

大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（参加者向け②）

競技中の留意点

□招集・検車

- 検車を行うが、密集を避け、スムーズに検車が済むよう規則違反や不備がないよう準備をすること。
- 選手・機材の接触は極力避け、必要時は手袋着用して行なう。
- ロードにおいては、サインシートを省略し、計測チップの動作確認をもって出走意思の確認とする。
- ヘルメットカバーは、使いまわしをせず、回収して洗濯・乾燥し再使用する。

□競技前

- スタート前までマスク着用する。トラックはインフィールド待機中、ロードはスタート5分前まで着用する。（ただし、熱中症、呼吸困難に注意）
- 取り外したマスクを放置しないよう、マスクケースを必ず用意しておくこと。
- フィジカル・ディスタンス2m確保する。
- 選手控え所でウォームアップする際は、選手同士の間隔を十分に取って行うこと。
- インフィールドに入る付添いの人数は、選手1人につき2人以内とする。
- インフィールドのテントはウォームアップが必要な選手のみとし、マスク着用で行う。
- 競走種目のホルダーは各チーム内で行う。
- チームサポートは選手や機材の接触を極力避け、必要時は手袋を着用して行なう。

□競技中

- 選手は、唾、痰を吐かない。
- 選手は、タオル、ボトルの共用はしない。
- 補給にあたっては、マスクおよび手袋着用、補給者同士の距離確保等に努めて行う。
- 競技役員・スタッフはマスクを着用して業務にあたる。
- 監督がインフィールドから指示を行う際は、決められた種目において認めるが、マスクを着用とすること。

□競技後

- 機材等は共用しない。やむを得ず共用する用具については、身体が頻繁に接触する箇所を消毒する。
- ケガや体調不良の人にむやみに接触しない。
- 落車事故発生時は、感染防止対策をして担当の競技役員、救護の医師・看護師が対応にあたる。
- 体調異変の際は、主催者へ報告し、救護所の医師らの指示に従って適切に対応する。

□セレモニー

- 表彰式は上位者（1～3位）にメダルセレモニーを行う。
- メダルを渡す際は、プレゼンターは手袋を使用し接触をできるだけ避ける。
- 表彰エリアの人数制限をし、できるだけ密集を避ける

大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（主催者向け①）

大会参加者への対応

□実行委員会は、感染防止のため実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（大会の受付場所等）に掲示すること。

□実行委員会は各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認すること。

□大会参加者から以下の事項を記載した健康チェックシート（様式 1）を取りまとめた健康状況確認用紙（様式 2）を学校ごとに提出をさせること

- 大会当日の体温
- 大会前2週間における以下の事項の有無
- 平熱を超える発熱
- 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
- だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- 嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触
- 同居家族や身近な知人で感染が疑われる方
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触

□入場時の検温チェック

- 会場に入場時に検温チェックをし、健康状況確認用紙を提出すること。
- 発熱や風邪の症状がある場合、入場、受付を取りやめる。来場を控え、医療機関を受診する
- ロード会場のオートボリスでは、入場ゲートで車に乗車したまま検温する。発熱者が認められた場合、乗車している全員が入場できない。

□マスク等の準備

- 大会参加者がマスクとマスクケースを準備しているか確認すると同時に、着用について指導すること
- 参加の受付、着替え、表彰式等の競技を行っていない間については、マスクを着用すること（競技中のマスクの着用は大会参加者等の判断によるものとする）

□大会参加前後の留意事項

- 大会の前後のミーティング等においても、三つの密を避けること
- 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること

当日の参加受付時の対応

□受付には、手指消毒剤を設置すること

□参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと

□受付を行うスタッフには、マスクを着用させること

□人と人とが対面する場所は、経費面を考慮して、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること

□発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように、貼紙などにより注意を促すこと

□新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）や各地域で取り組まれている通知サービスを活用することも考えられる

大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（主催者向け②）

実行委員会が準備すべき事項の対応

□手洗い場所

- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くため、参加者にマイタオルを持参させること
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意すること
- ジェットタオルは稼働を停止すること
- 更衣室、休憩・待機スペース
- 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、可能な限り消毒すること
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること

□洗面所（トイレ）

- トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、可能な限り消毒すること
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くため、参加者にマイタオルを持参させること
- ジェットタオルは稼働を停止すること。

□飲食等について

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること
- 飲料についてはペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップを使用し、共用はしないこと
- 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

□観客の管理

- 非接触型体温計等を使用して検温し、37.5℃以上の場合は入場を断ること。
- 観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること
- 大声での声援を送らないことや会話を控えること
- 会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知すること

□大会会場

- 大会を室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと
- 換気設備を適切に運転すること
- 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと

□ゴミの管理

- 参加者にゴミを持ち帰ることを義務付けるとともに、その内容を周知すること

大会開催時の感染防止策チェックリスト（メディアおよび視察関係者向け）

□基本事項

- 大会開催・実施時の感染防止策チェックリスト（参加者向け）の感染防止策を遵守して参加してください。
- 取材および視察の人数は各社・各所属団体で2名以内とします。
- 取材・視察の際は、事前に「申請書」を提出し、大会2週間前から大会終了後まで各自が「健康チェックシート」に記録し、個人保管してください。
- 入場する際、検温チェックし、「大会参加同意書」、「健康状況確認用紙」を提出してください。検温により発熱（37.5℃）以上、体調不良等が認められる場合は入場できません。
- 入場する際、受付で名刺を提示して、IDカードと報道用ビブスを受け取って入場してください。

□取材・視察における留意点

- 選手控え所への立ち入りは禁止する。
- フィールド内は許可された区域のみとする。
- 選手への取材は、指定された区域で行うこと。正面スタンド4C側の主催者が設置したテント行ってください。
- 取材は、取材者と選手・監督、または取材者どうしが一定の距離（2m程度）を確保して行ってください。
- 取材の時間が長くないように注意してください。また、目的以外のコミュニケーションは控えること。
- アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取組（別紙）に遵守した取材活動をお願いします。

大会開催時の感染防止策チェックリスト（救護要請者への対応）

救護要請者への対応

発熱症状などで救護を要請する者が発生した場合には、以下の手順により対応することとする。

事象発生→ 事象報告→ 救護所連絡→ 救護所対応→ 医療機関連絡・連携→ 救急搬送対応

(1) 救護所への誘導

□会場において、発熱などによる患者が発生し、救護の要請があった場合には、速やかに救護所担当に連絡し、救護所担当の指示をに従い対応する。

□スタッフは、救護要請者にマスクを着用させた上、他の参加者と接触しないルートを通り、救護所もしくは専用に設けた場所（換気されたスペース）に誘導する。

(2) 救護要請者への対応

□救護所担当（医師もしくは看護師）は保護具を着用した上で、救護要請者に対応する。

□救護所担当は、症状などの聞き取りの結果、新型コロナウイルスに感染している可能性がある判断した場合には、事前に決定した新型コロナウイルスの検査に対応できる提携医療機関の受診を案内し、受診を促す。

□病状が改善しない場合には、救急車の搬送依頼を行う。このとき、氏名、連絡先（携帯電話番号など）、会場内での行動、同行者の有無を聞き取る。

□患者の移動（病院もしくは救急車）の際には、救護所等から出口まで、人の少ないルートを通る。

□提携医療機関への受診や救急車により搬送を行う場合には、患者に同伴者がいる場合は同行する。

(3) 連絡・連携

□提携医療機関や保健所、消防機関等との連携により、円滑な対応ができるように連携を行っておく。

(4) 消毒

□ 救護要請者の会場内での行動履歴に基づき、必要と判断した場所を消毒する。

□ 消毒にあたる者は、保護具を着用して実施することとし、消毒に要した保護具は、通常のゴミとは分別して廃棄する。

救護要請者の定義について

少なくとも以下のいずれかに該当する場合

1 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれか

があると、本人からの申し出があった場合

2 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が4日以上続くとの申し出があった場合（解熱剤などを飲み続けなければならない場合も同様。ただし、基本的にはこのような症状の方は、会場入場時のスクリーニングにより入場はできないようにするものとする。）